

AM

94 F 14

日本國政府 特許出願公告
特許公報 昭26-1529

公告 昭26.3.23 出願 昭24.9.5 特願 昭24-8861

出願人 発明者 森 半兵衛 東京都文京區春木町3の21

腔内薬物挿入器

発明の性質及目的の要領

本発明は端部に薬物收容部を有する局部挿入外筒と、該外筒に嵌合せられ貯留液を噴射し得べき噴液装置を備へたる嵌合内筒とより成り薬物を局所に挿填後直に注液し得べからしめたることを特徴とする腔内薬物挿入器に係はり其の目的とするところは薬物挿填後該薬物が迅速に溶解するに必要な量の給液を行はしめて其の溶融を促進せしむると共に薬物が挿填部に停滞し其の溶融濃液による粘膜の炎傷等を惹起するの虞れなからしめむとするに在り

図面の略解

圖面は本発明より成る腔内薬物挿入器の三つの実施例を示すものにして第1圖は挿入外筒とその内部に摺動自體の卿子桿を有する嵌合内筒とより成る挿入器の縦断面圖にして第2圖は其の側面圖第3圖及第4圖は何れも挿入外筒内にゴム球を取附けたる嵌合内筒を挿着せるものを示す縦断面圖なり

発明の詳細なる説明

本発明は腔内奥部に挿入を必要とする避妊薬の如き薬物が其の溶融液僅少なるがため比較的長く原形の儘停滯し薬效の直に奏せざるの缺點あるに着目し薬物挿填後直に注液を施し以て其の溶融を促進せしめて薬物の充分なる效果を發揮せしめむとなしたるものにして以下圖面に就き其の構成を述ぶるに第1圖に於て1は挿入外筒にして内部には摺動自在の卿子桿及卿筒6を有し右端部には膨出部2を有し其の内部には固形錠剤又はクリーム状薬物を收容し得べき空所3を有す、尚この收容空所の口縁部内周には第2圖に示す如き錠剤破載用の突起4を適宜間隔を置きて數個設けて錠剤挿填のとき支持片たらしむると共に卿子桿10端面にて該錠剤を壓迫のとき數個の細片に破壊せしむるに役立たしむるものなり。卿筒6の先端近き側

面には小孔8を穿ち卿筒の注液口兼吸液口たらしむ。

次に第3圖に於ては挿入外筒1に對して中央部に貫通縦孔9を有し先端近くに於て側部に開孔する注水兼吸水孔を備へ且ゴム球12を橢形覆體内に取附けたる嵌合内筒とより成る腔内挿入器を示すものにして本圖のものに於てはゴム球が第1圖の卿子桿10に代るものなり、次に第4圖に於ては嵌合内筒14を中空體より形成して内部に液體收容室17を設け該室を右側部に小孔を穿ちて注液兼吸液孔たらしめ又細孔16によりゴム球に連絡せしめたり。

本發明挿入器は以上の如き構成よりなり、之が使用に當りては固形錠剤又はクリーム状薬剤を挿入外筒の端部たる收容部に入れたる後嵌合内筒を温湯又は適宜の薬液中に其の先端を浸し卿子桿10又はゴム球12若くはゴム蓋18により吸液したる後再之を挿入外筒に挿着したる僅手指にて把持し挿入外筒を腔内に挿入し其の先端が腔部奥端に達するに到り挿入を停止して卿子桿又はゴム球を押壓す然るときは先づ薬物が器體より局所に押し出され然る後側部の注液口8, 10, 15は收容部3内に於て開口注液せらるゝを以て局部に放出せられたる薬物に對しては直に注液せらるるものにして從て其の溶解作業も迅速にして薬物挿填後直に十分なる薬效を奏し得べきのみならず薬物が局所に長く停滯して溶解濃液による局部の粘膜炎傷を招く虞なからしむるものなり

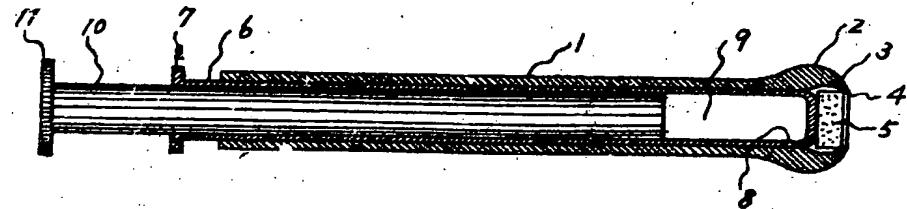
特許請求の範囲

本文所載の目的に於て本文に詳記し圖面に示す如く端部に薬物收容部を有する局部挿入外筒と、該外筒に嵌合せられ貯留液を噴射し得べき噴液装置を備へたる嵌合内筒とより成り、薬物を局所に挿填後直に注液し得べからしめたることを特徴とする腔内薬物挿入器

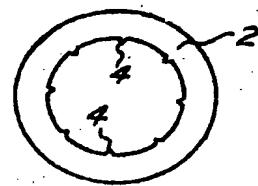
(2)

特許出願公告
昭26-1529

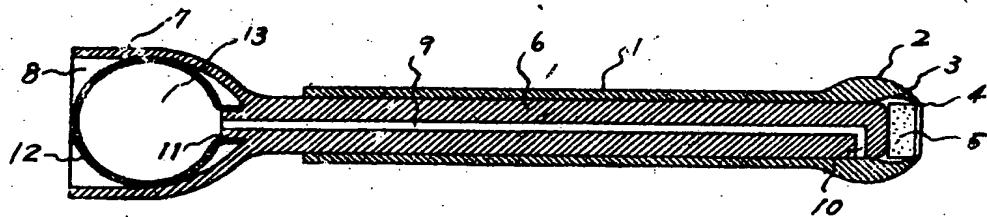
第1圖



第2圖



第3圖



第4圖

